

図1 防災科研Hi-netによる三重県中部の震源をDD法により再決定した震源分布を示す。(a)震央分布(深さ0~20km)、(b)南北断面に投影した震源深さ分布、(c)東西断面に投影した震源深さ分布、(d)本震の初動メカニズム解およびMT解。

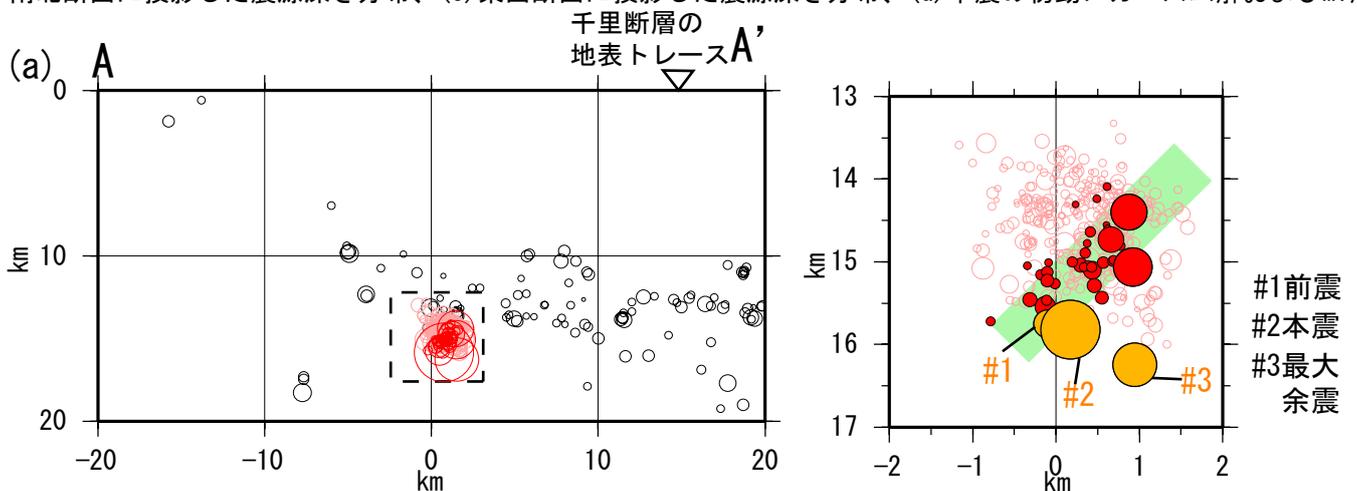


図2 (a)本震MT解節面走向(N148°E)に直交する断面(図1(a)のA-A')に投影した震源深さ分布、(b)余震域の拡大図(図2(a)の点線四角で囲まれた領域)。赤色は手動検測値を用いて決定した余震位置、薄い赤色は自動検測も含めて決定した余震位置を示す。(b)においてオレンジ色は前震、本震および最大余震の震源位置を示す。緑色の線はMT解節面の傾斜方向(45°)を示す。

三重県中部における地震深さ分布の下限は、西部から東部にかけて深さ10kmから20kmまで深くなる傾向がある。2007年4月15日の地震は、地震深さ分布下限が変化する領域で発生している(図1(c))。DD法により再決定された余震分布は、本震MT解の西傾斜の節面と調和的な分布をしている(図2(b))。この節面を地表まで延長した場合、近傍には千里断層が存在している(図2(a))。